

平成29年度

井手町総合教育会議議事録

井手町総合教育会議議事録

招集年月日 平成30年3月20日(火) 午前11時開会

招集場所 井手町自然休養村管理センター 第2会議室

議事日程

- 1 開会
- 2 平成30年度の教育施策について
- 3 その他

出席委員

町長	汐見 明男
教育長	松田 定
教育長職務代理者	森田 正弘
教育委員	古川 透子
教育委員	古川 幸子
教育委員	木田 修司

職務のため出席した者の職氏名

教育次長兼学校教育課長	中島 一也
学校教育課課長補佐	岩村 恭子
学校教育課課長補佐	加藤 益丈
社会教育課長	高江 裕之
給食センター所長	奥山 英高

事務局

理事兼総務課長	脇本 和弘
総務課主事	片岡 侑也

会議傍聴者 なし

○事務局 それでは只今より、井手町総合教育会議を開会いたします。

私は本日の司会を務めます、総務課の片岡でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、本会議につきましては、会議録を作成し、公表することを予定しています。

また、報道機関による取材等を受けた場合には、会議結果、概要等について情報を提供することとしておりますので、委員の皆様方におかれましては、ご了承いただきますよう、お願ひ申し上げます。

それでは本日の会議は、お手元にお配りしております次第に沿って進めてまいりたいと考えております。まず、開会に当たりまして、汐見町長よりご挨拶をお願ひいたします。

○町長 皆さんおはようございます。今日は、先ほどの卒業式に引き続いてということで、委員の皆様方には、なにかとお忙しいところ総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。平素は、本町の教育行政の推進にご尽力いただいておりますことに、この機会をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、平成29年度もあと10日余りになりました。3月8日から定例町議会が始まりまして、昨日閉会をいたしました。提出をいたしました議案すべて原案どおりご可決をいただきました。特に、住民生活に密接に関わります一般会計予算でありますけれども、後ほど、教育委員会の関係については説明があると思っておりますけれども、今回の予算は玉水駅の周辺整備等、大型事業がありますので、予算規模は47億8千万ということで、昨年度に比べまして2億6千万多くなっております。これまでで一番財政規模が多かったのは、平成11年度の46億2千万ということでありますので、それよりも1億6千万多くなっており、この30年度予算はこれまでで最も大きいということになります。

井手町の場合、住民から納めていただきます税金は少ないまちであり、平成10年ごろでありましたけれども、人件費は高い、借金である町債残高は多いということで、このままいけば住民サービスに使う財源がないと、こういうことでしたので、職員給与や定数の見直し、ごみ収集の民間委託、あるいは議会の方では定数の削減、それと金利の高い借入金の一括返済や、利率の低いもの

に借り換えなど、行財政改革に取り組んできました。おそらく京都府内の市町村の中で、最も早く行財政改革に取り組んだのではないかと考えております。その結果、平成11年度と30年度の人件費と借金の返済にあたります公債費を比較してみますと、人件費は平成11年度では13億ありました。それが今では7億9千万ということで、額で5億1千万、率で40%減少しております。それと、公債費では平成11年度は5億8千万ありましたが、今では2億3千万ということで、額で3億5千万、率で60%削減できておまして、合わせて8億6千万、率で46%削減になっております。こういった削減ができた結果、この29年度では高校卒業までの医療費完全無料化や、給食においてはアレルギーのある児童生徒に対する代替食の提供もできましたし、新年度からは後ほど説明があると思いますけれども、小・中学校の給食費の全額補助といったことなどに取り組めたのではないかと考えております。この8億6千万の削減がなかったら、今、申しあげました住民サービスはとてもできませんし、財政破綻までいくかどうかはわかりませんが、行き詰まった財政状況になったのではないかなと考えております。当然、行財政改革といいますと痛みも伴うわけでありますので、これは議員やあるいは職員が協力してくれたおかげであると考えております。

また、本町の場合、行財政改革の成果とあわせて、これまでから国や京都府から、力強い支援をいただいております。その結果、府内の市町村の中では最も財政状況が良いと言われておまして、決算が打っているのが28年度末まででありますけれども、井手町の場合28年度末で貯金にあたります基金残高は71億3千万ほど、借金にあたります町債残高は30億2千万でありますので、借金より貯金の方が41億ほど多いということになります。ちなみに、周辺を申し上げますと、宇治田原町は、井手町が8億台の税収であるのに対し、宇治田原町は16億ほどありますので倍ほど差があります。そこで、貯金は23億6千万、借金は43億2千万ということで、借金の方が19億6千万ほど多いということでもあります。

久御山町でありますけれども、京都府内で最も金持ちのまちと言われておまして、税収は45,6億ほどありますので井手町の5,6倍あるまちであります。しかしそこでも、貯金が26億5千万、借金が33億2千万ということで、6億7千万借金が多いということでもあります。

今、文化パークを売ったということで、関心が上がっております城陽市ですが、ここは貯金が21億8千万、借金が361億3千万ということで、借金の方が339億5千万多いということでもあります。もちろん京田辺市、木津川市でも、借金の方が多いということで、府内26市町村の中で借金より貯金の方が多いのは井手町ただ1つだけと、こういうことでもあります。しかし、今、申し上げましたように、井手町は税収が少ないまちであります。たしかに今、企業が進出してきておりますので、この30年度くらいから税収も少しずつ増えてはきておりますけれども、それでも税収は少ないですので、これからも行財政運営には十分注意をしながら進めてまいらなければならないと、このように考えております。

今日はこのあと、平成30年度の教育施策についてということで、教育委員会の方から説明をしていただいて、そのあと皆様方からの質疑をお受けしていきたいと考えております。限られた時間ではありますが、よろしく願いをいたしまして、開会のあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。それでは本日配布しております、資料のご確認をお願いしたいと思います。まず、次第が1枚、次に出席者名簿が1枚、そして資料といたしまして左肩ホッチキス留めしております予算要求事項説明書が1部、以上でございます。

それでは次第の「2 平成30年度の教育施策について」以降につきましては、これまで同様、会議の主事者である汐見町長に進行をお願いしたいと思います。それでは汐見町長お願いします。

○町長 はい、それではこれより議事の進行をさせていただきますのでよろしくお願いをいたします。

早速でありますけれども、本日の議題に入ってまいります。まず、次第の「平成30年度の教育施策について」につきまして、教育委員会の方より説明願います。

○教育長 只今ございましたように、町長のご高配によりまして平成30年度

学校教育、社会教育、学校給食センターの各般にわたり、充実した予算にさせていただきましたこと、感謝を申し上げます。継続する事業について一層の充実を図りますとともに、新規事業について円滑な実施に努め、その効果を見極めなければならないと考えております。とりわけ、厳しい財政状況が予想されるなか、先ほどございましたように学校給食費の全額補助という大きな決断をいただきましたこと、年額は小学校は平均で4万7千円、中学校は4万9千円ということではありますが、義務教育の9年間の総額といたしますと、1人約43万円の補助額となりまして、大きな保護者負担の軽減策になるのではないかと考えております。

また、ICT教育環境の整備ということで、これまでのコンピュータ教室の機器更新、大型モニタ、デジタル教科書に加えまして、タブレット端末を導入することができるようになりました。教育情報化の一層の推進のための大きな第1歩になるものと考えております。

さらに、小学校の英語の教科化によりまして、AETの増員予算を組んでいただきました。一口に英語の教科化と申しましても、小学校の教員にとりましては、これはなかなかハードルの高いことが予想されております。そういったなか、ネイティブスピーカーであるAETを増員することによりまして、AETが授業に入る時間が格段に増えるということでもありますし、大きな力になるものと考えております。なお、これに加えまして、予算事項ではありませんが、府教委との話ができて、来年度より小・中連携加配として中学校英語科教員を小学校へ一定時間派遣することとしております。

以上、私の方からは新規の事業や拡充予算を中心に紹介いたしました。この他にも地域教育の振興を図るため、多様な予算を引き続きいただいております。積極的に事業を推進しながら効果を挙げられるよう努めていきたいと思っております。あと、具体的なことは、各課の方から説明をしてもらいたいと思っております。

- 教育次長兼学校教育課長 それでは予算事項説明書に基づいて、それぞれ各担当課から若干説明をさせていただきます。まず学校教育課でありますけれども、英語指導助手ということで、30年度の予算額は286万円です。従来から拡充という位置づけでございまして、先ほどの話と若干重複しますが英語の教科化の前倒し先行実施ということで、AETを1名増員するもの

でございます。現在は中学校が週3日、井手小学校、多賀小学校へ各1日ずつということでありまして、もう1名増によりまして小学校の英語教育の充実を図ろうとするものでございます。ちなみにですけれども、算出方法等の欄にありますように、費用の内訳としては渡航負担金や備品等で286万円ということで、備品については新たなAETがお住まいになられる際的生活用品等を、町の方で用意する予算であります。1番下見ていただきますと、前年度が109万3千円ということで、今年170万円余り増額になっていきます。なお、この中には報酬が含まれておりませんので、報酬を含めた増額は440万7千円と、そういった予算になっております。

次の資料をご覧ください。続いて教育情報化推進事業ということで、この事業では先ほどもありましたように大型モニタやデジタル教科書の配備をしてきていますが、中身的には今回新規ということで、予算額は小学校分で250万2千円です。これについては32年度の新学習指導要領において必要とされるICT環境を段階的に進めるため、30年度は各校にタブレットを配置します。グループ学習等に活用していくということで、児童数で割り振りまして井手小学校は18台、多賀小学校は10台を予定しております。予算の中身としましては算出方法等の欄で、初期費用として回線の新設費用でありますとか、タブレットの設定費用、また、カバーや連携機ということで、大型モニタとの連携をさせる機器等で63万円見込んでいます。月額費用ということで毎月の通信費用、セキュリティや学習支援ソフトの利用料を187万2千円見込んでおります。続いて次の資料、中学校ですけれども、中学校分は予算額としては149万8千円です。中身的には先ほどと同様ですが、泉ヶ丘中学校には17台配置を予定しております。先ほどの小学校費と合わせますと合計で400万円の事業費となります。

○社会教育課長 それでは社会教育の方について説明させていただきます。まず事業名が史跡整備であります。予算額は197万円で、こちらは28年度から発掘調査を実施しておりまして、30年度につきましては史跡の中ほどの西側に3号釜がございまして、その南側の調査を実施したいと考えております。

続きまして、次のページですけれども、地域スポーツ活動でありまして、こ

ちらは住民の方の生涯スポーツの振興を図るために色々な事業を行ってありまして、30年度につきましては、この度各区におきまして公式輪投げの整備が図られたこと、また、ミニサロン等に行きますとその輪投げの大会をしてほしいという住民からの要望もございまして、30年度は町民輪投げ大会を開催したいということで、その開催費用を計上しております。時期的には2月ごろで、個人戦というような形でやっていければというように考えております。

次のページ、体育協会補助金ということで予算額340万円です。こちらの方は、毎年住民の方のスポーツの振興を図っていただいている井手町体育協会への補助事業を行っていますが、今回体育協会の方から、合併60周年を祝って、非常に多くの住民の方に参加いただいている町民体育大会、マラソン・ジョギング大会で合併60周年を祝う事業を実施したいという要望がございましたので、予算額を25万円増額しております。現時点では増額分もすべて住民の方に還元したいことで、体育大会につきましては商品の充実、また、マラソン大会につきましては抽選会の実施という方向で予定されているということでございます。以上です。

○給食センター所長 続きまして、学校給食センターの事業の説明をさせていただきます。まず、学校給食費支援事業でございまして、こちらのペーパーにつきましては小学校分でございます。本町の保護者負担軽減施策としまして、昭和49年度から給食援助費を実施しており、今現在は1食17円を補助しております。今回子育て支援のより一層の充実と、喫緊の課題である人口減対策としまして、30年度より給食費を全額町から補助する事業でございます。小学校分につきましては1食250円ということでございまして、今回対象となりますのは生活保護及び準用保護世帯、こちらは別の施策で補助がありますので、こちらを除きます小学生分ということで、合計279名になりまして、こちらに1年間の食数と、250円をかけました合計1,340万円を計上しております。

続きまして、次のページをご覧くださいなのですが、同じく学校給食費支援事業の、こちらは中学校分でございます。中学生は全146名ということで、こちらに食数と、1食270円をかけました合計730万円を計上いたしております。小学校分と中学校分を合わせまして合計2,070万円を事業として

予算計上いたしております。

続きまして、次のページですけれども、冷凍冷蔵庫の更新ですけれども、こちらは学校給食センターの施設整備を順次更新しておりますが、30年度につきましては、平成5年から設置をしておりました冷凍冷蔵庫を更新するという事で、75万4千円を予算計上しております。以上でございます。

○町長 今、説明がありました30年度予算の事業関係について、ご質問等ございましたらお願いします。どのようなことでも結構です。

○教育長職務代理者 今、来年度予算を説明していただきまして、英語指導助手が1名プラスされて2名になるということで、非常に嬉しい話だなと思っています。英語が小学校で教科化されるということではありますが、そのようなときに英語指導助手が増えるというのは現場にとってもありがたいことだなと思います。今現在はロバート先生が熱心に行っていておられますが、小学校で教科化されていこうという中では、もちろん小学校の先生も英語に関心はもっていただいているのですが、ネイティブの先生が来ていただいて小学校1年生から6年生まで入ってもらう、やっぱりこれはありがたいことだなと思います。また、2人になってどのような活用が予想されるのかうかがえたらなと思います。

それと、関連しまして英検の方ですが、4級までの受検費用を全額補助していただいて、さらに年度に1回に限り3級以上の受検費用を補助していただいているということで、本当にいろんな面で援助していただいて子どもたちも受検しやすくなっていると思います。また、小学校の数件チャレンジですね、小学校5年生のときに算数検定の8級受検費用を全額補助していただいているということで大変ありがたいことで、嬉しく思っています。

それと、教育情報化推進事業ということで、これからのグローバルな社会において、情報機器を使いこなすということは大事だと思いますので、大型モニタもこれまでずいぶんと設置されて重宝されてますが、タブレットですね、これからはそういうような時代になっていくし、子どもたちはとても早く頭に入っていきますので、この事業はありがたいなと思っています。特に英語指導助手と情報化推進事業の点で、より具体的なことがわかればおうかがいしたいと

思います。

○町長 事務局どうですか。

○教育次長兼学校教育課長 ただいまのご質問ですが、AETの活用を具体的にということで、先ほど現在は中学校3日と小学校1日ずつで週5日ということで申し上げました。増員後につきましては、1名については中学校が2日で井手小に3日、もう1名につきましては中学校3日で多賀小に2日ということで、現在計画しているところでございます。次に、教育情報化の関係でございましては各校にタブレットを配置ということで、各クラスで数人ずつのグループに分かれて、情報収集をみんなでしたり、意見を出しあってそこにまとめたりといった、グループ学習で活用をしてみたいと考えています。で、グループでまとめたものを大型モニタに映し出して、クラスみんなで確認しあったり意見を出しあったりといった使い方を想定しているところです。将来的にはクラス全員が使えるような配布も視野には入れていますけれども、全国的な流れを見て、30年度はまず第1段階をすすめていく状況でございます。以上です。

○町長 どうですか、よろしいですか。

○教育長職務代理者 はい、ありがとうございます。

○町長 ほかどうでしょうか。

○教育委員 30年度の施策、どれも素晴らしいですけど、特に印象深いのが給食費の全額補助で、こういったことをやっている自治体は見たことがないです。このようにして、小・中学生の子どもたちが育ちやすいまちを目指していってほしいかと思うのですが、小・中学生の数を増やすということも少し考えていかなければならないのかなと思います。こういう情報をもっと発信、PRして、井手町に来たら医療費もタダだし、給食費もタダだし、駅も立

派なののできたしというように、学校教育とは少しずれた話なのですが、子どもを産みそうな若い世代が定住するように、もっとPRしていけたらさらに良いのかなと思います。あと、やはり住む場所ですね。空き家バンクの登録も推進されてはいるんですけども、空き家に定住したいと思っている人たちと、これから子どもを育てていこうという世帯とをどうマッチさせていくのかということ考えたときに、やっぱり若い世帯が住みやすいような住宅の提供とかができるといいのかなと思います。ちょっと教育とは外れてるんですけど、以上です。

○町長 私が町長になったのが平成7年ですが、その12月と、8年の1月に、井手町から転出した過去5年間の人にアンケート調査をしました。今後井手町が取り組むべきこととか、なぜ転出したのかとか、いろいろ調査しました。集約しますと、奈良線を複線にして便利にしてほしい、近くに働く場所が無いので確保してほしい、そして今言われたような、住むところがない、町内で住もうとしたときに、土地を確保してほしい、この3つが主なものでした。それに向けてこの間ずっと、20年ほどかかってますけれども取り組んできました。1つは奈良線の複線化ですが、1期事業は京都からJR藤森と宇治駅から新田駅で、そのあと井手町はいろいろ働きかけをして、玉水駅に快速を停めてもらえるようにしました。その後、今の知事にいろいろお願いをしまして、今、2期事業が進んでいるということでもあります。多賀、玉水駅間は32年の春に完成します。あとJR藤森から宇治駅間と、新田から城陽駅間は35年の春に完成するということになります。それでもまだ複線の率が64%で、あとまだ36%残っています。とりあえずこの2期事業を早く完成をさせて、全線複線化にもっていかないといけません、それは次の話で、とりあえずはそこまで進んだということです。

2つ目の企業誘致ですが、幸いなことにいろいろ企業が入ってきています。ハローワークの田辺を見ますと、有効求人倍率が2倍を超えているのは井手町だけということで、今一番働く場所が確保できているということで、対象者が少ないので、余計に率が高くなっているというのがありますが、そういうことにはなっています。そして今もまだ企業が建っていますので、これからさらに雇用については、働く場所は確保できるというように考えています。白坂は青

谷バイパスができて、多賀の自動車教習所の樋門も改修して、それで開発が可能になりました。307号線のバイパスができていなかったらあの開発はできません。それと、多賀の西の方でも1つ企業が操業を開始して、梅の花という豆腐屋さんですけれども、そこが今、建物の建築を進めているということで、これは10月頃完成すると。そうなりますと、100人から150人雇用が増えまるということになります。

それと、多賀の駅前に大型施設を進出したいという話が出ています。これは進めていこうかなと思っているんですけど、これも、多賀の西側は梅溪橋の掛け替えをして、駅前については多賀バイパスもできた、その関係で入ってきているわけでありますので、非常に道というものは地域の活性化に大きい影響を与えていると思っています。

もう1つは住宅地の確保ということで、その道の関係ですけれども、宇治木津線道路です。これは泉大橋の東側には、学研の方から橋が架かっています。それと、新名神の城陽インターと宇治田原インターの間にスマートインターができる、そこへ結びつけて長池までのばす、そういう道路です。そうなりますと井手町から城陽市、京田辺、精華、木津川が繋がって、循環できるようになるということで、その道路ができますと、当然沿道サービスもできますし、住宅もできます。そして、井手町、城陽市、木津川市で促進協議会をやっており、早く実現をとお願いしていますけれども、国の方ではルートを示されています。山裾ルートと市街地ルート、それと、今の国道24号線をあと2車線増やして4車線にするルートの3つです。で、アンケート調査を住民の皆さん方にやってもらって、2回やりましたけれども、そしてこの3月に入って、委員会を開かれ、出席された全員が、山裾ルートですね、私たちがお願いしていた丘陵部のところに南北に通じる道路を整備すべきということでした。あわせて、新名神が平成35年に開通しますので、それに向けて早く取り組むようにとのことでした。それらができたら、今、言われてますように人口の減少を食い止めるということは可能ではないかなと思っています。

○教育委員 これだけ子どもたちのために予算を組んでいただいて、特に、給食の関係は、親としてもとてもありがたいなと思っています。医療費の無償化も高校卒業まで延ばしていただいたというのもあるので、とても助かりますし、助

かっている保護者もいるんじゃないかなと思います。また、英検や数検についても、自分でもっと学んで目標がある子は、親にも言って自ら進んで受けると思うんですけど、多くの子はなにかきっかけがないと、受けなあかんとならなかつたら受けない、ということもあると思うんですけど、学校でこういうのあるよという紹介とともに、町から補助をしていただけることによって、そんなに受けることに乗り気でない子やその親も、学ぶことに対してもっと前向きになるんじゃないかなと思います。中学校で始まっている交換留学も希望者がすごく多いと聞いているので、そういうのにも繋がって、いい結果が出ているのではないかなと思います。

ただ、子どもの数で気になるのが、毎年児童の転出と転入があると思うんですけど、最近の割合はやっぱり転出の方が多いのかなと思ってまして、保護者の事情もあるのでそれは仕方ないことなんですけれど、これから学校に入ってくる子どもたちは増えていくのだろうか、というのがちょっと心配です。あと、多賀に大型商業施設が来るという話がちらほら聞こえてて、地元の個人商店の影響とかどうなるのかな、というのがちょっと個人的に心配してて、町民や商工会の反応とか、そのあたりはいかがでしょうか。

- 町長 大型商業施設は、規模が大体山城多賀駅の上がっていくところから南谷川までと、かなり大きな施設になるということです。駐車場が850台でガソリンスタンドも予定されていると。地方創生の関係でアンケート調査を町の方でやっています。20代から40代の女性を対象にしたんですけども、転出された方の7割が「買い物が不便」であると、そういう声が多いんですね。それを食い止めないと、転出者が増えていくということになりますので、この大型商業施設は、将来的な面で見ても受けていくべきだと私は判断しています。ただし、今言われたように既存の商店をどう守っていくのかということも大事なことだと、そういう思いもありまして、この3月議会に、2割のプレミアム付商品券を、今後も安定的に、町財政が厳しくなってもできるように1億3千万円基金積み立てをしました。財政が厳しくなったときは、その基金を取り崩していくと。国際交流でやっているようなやり方です。これは商工会とも話していますので、それによって既存の商店を守って、消費者にも利用してもらい、そのように考えています。

○教育委員 給食費の全額補助は大変ありがたいことなのですが、予算は毎年2千万ということで、大変なことだなとも思っています。あと、井手小も年数が経って、改築とか長寿命化とかいろんな方法はあるかと思うんですけども、今後区画改修という話も出てくるかと思えます。単年度ではなくて長期的にどういう改修をしていくかというようなことも、教育委員会の方でされるかと思うんですけども、その予算措置について、補助金もありますし、よろしくお願ひしたいと思ひます。あと、図書館もいつもきれいな本がどんどん来てますけれども、今後も引き続きお願ひしたいと思ひます。以上です。

○町長 今、教育基金2億ほどあるのかな。それを使って、トイレとかきれいにしたりしたら気持ちいいわな。確かに行政サービス、子育て支援、みんな単費やからな。子育てサークルと意見交換もしたりするんやけれども、3人目の子どもの保育料無料化も、前は保育園の中で3人目が無料でしたけれども、そんなにうまくできないという話をされて、せめてやっぱり上の子が小学校、中学校でも無料にということで、それやったら思い切って20歳までにしますということで、今、上が20歳までで3人目は無料にしています。それでやっぱり500万円ほど対象者が出てるとということで、大きい。ただ、独身の人が多いので、もうちょっと結婚してもらって。

○教育委員 お見合い事業、商工会の方でされてますけど、なかなかね。

○町長 そうですね。まあそんな感じで、一度やったからには、その後も頑張っ
て続けていきます。ほか、よろしいですか。それでは次第の「3 その他」
について、説明お願ひします。

○教育長 それでは、この会議の重要事項の1つであります、いじめ問題の状況
について担当の方から報告させていただきます。

○学校教育課課長補佐 平成29年の1学期と2学期のいじめ調査の結果につ
いて報告いたします。井手町の基本方針に基づいて、学期ごとに家庭持ち帰り

のアンケート調査と、個別の聞き取り調査を併せて実施いたしました。国の基本方針には、心身の苦痛を感じている者を全て拾い上げることとされており、それに基づきまして、認知件数は小学校で89件、中学校で10件、合計99件です。全体的には小学校低学年辺りが多く、年齢とともに少なくなっていく傾向や、ひやかしやからかい、悪口、いやなことを言われた、などが多いという傾向は前年度と同様です。なお、重大事象は発生しておりません。ここ数年の特徴的な点としまして、インターネットや携帯電話を利用したトラブルや、いじめ事象が見られております。各校で情報モラル教育を実施したり、PTAがスマホの使い方を啓発したりしながら、子どもたちや保護者の理解を深めておりますが、まだまだ徹底できていないことを残念に思っております。引き続き、情報モラル教育の徹底を図って参ります。以上です。

○教育長 その都度教育委員会でも報告させていただいておりますので、この会議の重要事項として報告に留めさせていただきたいと思っております。

○町長 そうしたらよろしいですね。以上を持ちまして井手町総合教育会議を終わります。ありがとうございました。